

可豆思賀能 勝鹿の かつしかの 葛飾の	麻萬能手兒奈我 真間の手兒奈が ままのてこなが 真間の手兒奈が	安里之可婆 ありしかば ありしかば いたから	麻末乃於須比余 真間のおすひに ままのおすひに 真間の磯辺に	奈美毛登杼呂余 波もとどろに なみもとどろに 波まで打ち寄せていたんだ	万葉集 卷十四 3,385 作者未詳
豆知識 (本歌の表記は、1字1字が対応する非略体歌。) (おすひは汚水ではなく、磯辺(いそへ⇒いそへ)の方言。当時の東国の方言が分かる一級資料である。)					